

第1回 品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン策定委員会 議事概要

日 時：平成21年4月20日 14:00～16:00

場 所：品川区役所第2庁舎災害対策本部室

議事次第

1 開 会

2 委員の委嘱

3 区長挨拶

お忙しい中、策定委員会にお集まりいただき大変ありがとうございます。皆様方をはじめ多くの方のご意見等を伺いながらビジョンを策定してまいりたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いします。

さて、これまで文化芸術またはスポーツ活動は、「個人の営み」という観点で捉えられ、「生涯学習」や「生涯スポーツ」として教育委員会で所管されてきました。

一方、こうした活動は、「地域やまち」または「人々のつながり」を広げたり、あるいは「地域の活力」を高める役割も担っているといった視点で捉えることも可能ではないかと思えます。

こうした考え方が、区議会では、議員の皆様による自主的な提案により「文化芸術・スポーツのまちづくり条例」という形で結実しました。

また、区でも4月1日付けで、この条例に沿って組織改正を行い、文化芸術・スポーツの所管を区長部局に移しました。

今後は「個人の営み」としての文化芸術・スポーツ活動が、どうしたら地域の活力、人々とのつながりの深化につなげることができるのか、そして、品川区全体の活力を上げていくことができるのか、しっかり考えていく必要があると思っています。

委員の皆様には、各々のお考えをお聞かせいただき、また、活発な議論でこのビジョンを策定していただき、品川区の活力が高まるよう期待しております。お忙しい時間を割いての委員会ですが、それぞれの方々が多くの発言をされるとともに、皆様方にとっても学び取ることの多い委員会であることをご祈念申し上げます。

4 委員の紹介

5 諮 問

6 委員長挨拶

委員長

・私の大学は静岡県浜松市にあるが、自宅は隣の港区にある。浜松の文化振興ビジョンを2年間かけてこの3月にちょうど出来上がったところに、今回のビジョン作成を手伝ってほしいとお話をいただいた。

・品川区については、いつも通って親しみは感じていたが、皆様方のいろいろなお知恵やご意見をいただく中で、1年間という短い期間でまとめなければいけないので、何とか頑張っていきたい。

副委員長

・私は、茨城県のつくば市に住んでいるが、品川との関わりは、スポーツ関連で区のスポーツ振興計画を3年ほどかけて作っていた。それをベースに17地区にスポーツ・レクリエーション推進委員会を立ち上げるお手伝いをしてきた。その後、社会教員委員としても区の社会教育に関わった。

・品川区は規模が大きくて、団体も複雑で活動も活発である。これらを整理するのは困難であるが、委員長のお手伝いをしながら、地域が活性化するような、次の世代につながる新しいビジョンを検討していきたい。

7. 委員会運営について

8. 品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョンの策定について

9. 委員懇談

委員長

・委員の皆様にご自己紹介を兼ねて、品川区の文化・スポーツの振興に関する考えなどをお話いただきたい。

委員

・私たちは、青少年の健全育成のため、区内13地区でいろいろな行事を行っている。行事には中学生がなかなか参加してもらえない。小学生は喜んで行事に参加してくれるが、他のスポーツ行事などがあると私たちの行事をキャンセルされてしまうことがある。こうした問題に対し、どうしたらよいかいろいろ考えているが、子供は色々な所に所属しているので、行事が重なると子供の“取り合い合戦”のような状況になり困っている。

・それでも、各地区でやっている行事の火は消したくないので、何とか頑張っている。私たちの行事は単発なので持続性の点で難しいが、やっていかななくてはならない。

委員

・文化芸術については、「歴史あるものの認識」と「それを継承していく」というポイントがあるが、一方で「新しい文化を生み出していく」という場を醸成していく考え方があって、その面の議論をしていきたい。

・スポーツについては、スポーツができる場所・環境も大事だが、最近のスポーツの動きには「交流」ということがある。交流が、健全な競争を生んで（スポーツの）向上が図られ、心身を育てていくというのが一つの源にある。そういう牽引する力をどう見出し、提供できるかも一つの議論となる。

・人はアピールできる場があるとモチベーションが高まる。見てもらえる「達成感」を人は持っている。見てもらえると、その場でコミュニケーションが生まれる。そういう時にメディアの利活用が、これからは重要である。活動や場を知っている、知っていないという力をサポートするのはメディアの力である。その点で貢献できるように議論したり、提案をしたりできればと思っている。

・都市部と地方というような、文化芸術・スポーツを源にした交流というのが、区内だけではなくて地域間にまたがる交流に広がっていかないといけない。それにより新しい潮流が生まれ、新しい元気の源になる。

委員

・今、個人的に文化芸術・スポーツの活動をやっているが、そうした活動を、まちという観点から捉まえて品川全体のにぎわいにつなげる、または、地域と地域を結ぶことにつなげていくのは、とても難しい問題だと考えている。

・「観光」という視点で（今回のビジョンの策定は）「文化芸術・スポーツ」という観点から、品川区をにぎわいのあるまちにしていくことではないかと思っている。

・先ほど「アピールできる場、見られる場が必要」という話があったが、たしかに、まちに出て見られたいという部分がまちづくりの大きな要因になっていると思う。

委員

・体育指導委員は現在 35 名で活動しているが、忙しいなど、いろんな面で敬遠されがちだが、地域のために何ができるか、地域のコミュニケーションのために頑張っている。年 4 回の「いきいきウォーキング」や夏場のプール開放の運営など、活発に活動している。

・総合型地域スポーツクラブについては、2 年前から、品川・大崎地区、五反田・日野学園を中心に準備委員会を開き、来年 3 月にはクラブを立ち上げようと、今頑張っている。ただし、どんな形にするかなかなか難しい。今までスポーツ・レクリエーション推進委員会という組織があったが、そのバージョンアップという形で、自分たちでいろんな管理をし、自分たちで楽しんで、自分たちで地域を活性化しようと、今、やれるところからやっている。

委員

・「行政はどうしても福祉などが先行し、文化は後追いになってきた」という指摘はそのとおりである。文化芸術振興は、行政の政策面では時々出るが、それをどう具体化し、何を目標にして何を考えていくかとなると、動きが鈍くなってしまう。しかし、議員提案で今回の条例ができて、この 4 月から教育委員会の「生涯学習」と、私どもが担っていた「文化」が合体し、「区民全体のものとして文化」が行われるところまで来た。

・文化は難しく見えるが、本当は、皆が楽しんで取り組める共通の要素ではないか。このことを上手く区民の方々に伝えるため、このビジョンで委員の皆さんと話し合いながら作っていききたい。その中で、私どもも一定の役割を担えるように頑張っていきたい。

委員

・スポーツ大会には、参加している人だけが楽しむ雰囲気も中にはあり、地域とのつながりが本当にあるのか、そのあたりがやはり疑問になってくる。先程、「見られることによって中身が深まっていく」という委員の話があったが、「見るスポーツ」という振興もこれからは大事だし、また、スポーツを「支えていく」という観点からもスポーツ振興を考えていきたい。

委員

・私は大学に入る時に地区委員になり、そこから区との関わりが多少生まれた。地域振興に関しては、人と人がつながることによって生まれる「コミュニケーション」によって、地域がにぎわいを持つ形もある。地域が振興すると区も盛り上がっていくということを、まだ勉強途中だが、ずっと感じてきた。

・私は、林試の森でのコンサートにも携わったが、林試の森自体が都立公園なので目黒区と品川区にまたがっていて、二つの区の関わりをどうにか持たせて文化を共有していきたいと思った。品川区民は、品川区の文化だけを学ぶのではなく、目黒区に近い品川の人は目黒区の文化を学ぶことも必要で、その逆も必要である。そのような文化の共有によって、地域がもっと活性化していくのでは思う。

委員

・日本の伝統芸能・伝統文化は、お金がかかる、敷居が高いと思われがちである。これを、誰もが触れ合えるものに変えていくためにはどうすればいいか。そういったことを常に試行錯誤しながら公演などを続けてきたので、これからも、品川の文化芸術とスポーツの振興に貢献していきたい。

委員

・高齢者を主体として健康づくりのために太極拳を指導している。太極拳は、バランス運動と呼吸法であるが、これを皆様に教えている。西大井の「ほっとサロン」という所でも、3年程、太極拳を指導している。これからも、「健康づくり」と「仲間づくり」(一緒に健康でいること)を推進していきたい。

委員

・私はPTAのスポーツ部門の委員だが、学校の授業やイベントが第一であるはずで、次にPTAや地域でやっている事業、その後に、クラブ活動・課外の授業が来ると建前ではなっているにもかかわらず、例えば、(学校以外で)サッカーや野球の試合があって、何団体もの絡みがあるので、どうしてもそちらを優先せざるを得ない状況がある。そこをもう少し上手く調整していくことが、スポーツ振興にもつながるのではないかと。

・文化芸術については、いろんな所でいろんな人たち、いろんな団体がいろんなことをや

っている。おそらく、こうした活動は、初めに芽が出て、いろんな所で芽が吹き出して、いろんなことを皆がバラバラにやり出し、そのうち、ある程度淘汰されてくる。そして、系統立てられてセグメントができてきて、連携ができ、統合されるという流れを辿るのではと思っている。品川の文化芸術・スポーツの今の状況が、こうした流れの中のどの段階にあるか、とても興味深い。

委員

・私たちが「品川区文化芸術・スポーツのまちづくり条例」を提案し、約20回会合を開き、議会の全会一致で賛成をいただいた。当条例を作ったきっかけは、品川区では、これまで、文化芸術について、予算化はしてきたが、積極的にどこまで捉えているかが見えず、世田谷区・港区などでも条例化していたので、品川区も条例化に向けてやっていこうとスタートした。

・区にお願いしたいことは、予算を入れられるように努力をしたいのと、これを「にぎわい」に結びつけること。今回、条例もでき、策定委員会もスタートしていく中で、我々としても一生懸命やっていき、にぎわいに結びつくビジョンを作っていきたい。

・今回のビジョン策定では、細かい議論はなるべくせず、大きな方向性を作っていきたい。それに基づいて最後には、長期基本計画に基づいてどのようなものをしていくのかなど、個別の話が出てくると思うが、全体として大きな方向性を作っているのでも、よろしくお願ひしたい。

委員

・私も前述の条例作りに関わった。文化芸術・スポーツは漠然としていて具体性がない。これをどう援護し、利用しながら、どうまちづくりをしていくのが重要な課題として議論した。

・様々な文化は固有で対等であり、また伝承するものである。かつ、私（わたくし）を満たすものである。それがまとまった時に求心力を得て、文化芸術・スポーツにあふれたまちや区ができる。

・情報過多の時代の中、文化芸術も捉えどころがなく、その定義も曖昧になってきている。文化は固有の文化であることが共通認識だと思うが、当委員会を通じ、品川独自の固有の文化は何かを考えながら議論を進めていきたい。

委員

・文化芸術・スポーツは、普段から触れていることで必要不可欠なものと感じている中、本質がなかなか見えづらい部分もある。委員長の言う「共通の到達点に向けての認識を共有し、議論を進める」との考えはその通りである。一方で、日頃感じていることとして、例えば「施設が足りないのでは」「こういった場所でこういうことができる」といった部分もたまたま意見の中で出し、それらを通して全体を見ていくことも考えなくてはいけないと思っている。

委員

- ・何がまちづくりに資するかは、基準を設けて精査をするというのではなく、区民の自由で活発な活動が元気なまちにつながっていくのであり、その理念が大事である。
- ・「掘り起こし」という視点も大事である。有名無名を問わず、品川区の新たな魅力を生み出すためにも、“将来の卵たち”を掘り起こしていくという作業も必要である。
- ・全ての区民・団体の、あらゆる形での参加を保障していくことも大事である。一步先を見すぎた芸術作品であっても、優劣をつけたり排除したりするのではなく「共有していく」という視点が大切になる。

山田副区長

・私は過去、教育委員会の中で社会教育活動の仕事をしており、いつでもどこでも誰もが参加できるようなシステムをどう作るかを議論してきた。今回、個人と個人の結びつき、個人の団体の中での活動、区内の中の各企業の個人とのコラボレーションのあり方など、新しい要素をどう入れながら、広く品川区の文化・スポーツの振興が図れるか。それをビジョンの中に表されると良いと思う。「輝く笑顔、住み続けたいまち品川」というのが区のモットーなので、それぞれの方々が輝いていただきたい。

宮地地域振興部長

・文化芸術・スポーツが教育委員会から区長部局になって、キーワードは「まちづくり」である。人がいなければ文化も生まれにくい。人と人との関わりの中でさらに文化が発展する。目指す方向があって、品川らしさ、自分たちの誇れる品川のまちは自然に出てくる。皆様方からいろいろな意見を聞かせていただき、じっくりと品川の文化について議論ができればと思っている。

副委員長

- ・にぎやかさを創出する場合、生活圏レベルの話と区全体レベルの話とでは中身が違ってくる。いろんなレベルに分けて話をしていかなければいけないと感じた。
- ・スポーツについては、文化・芸術もそうだが、民営化、分権化という流れの中で、どう位置づけをしていくのかという議論も必要。単に「お金がないから分権化」ではなくて、協働や新しい公共を作り出す「住民の主体性」や「品川区の固有な文化」を創出していくような、住民の力量形成につながるビジョンになることを期待している。ただし、その中でいろんなボランティアが出てくると思うが、単に動員にならないようにバランスをどう取るのか、難しさもある。
- ・個人の欲求充足だけなら、大きな予算を投入するのは変な感じもする時代になってきた。個人の課題から地域の課題をどう設定するのが大きなポイントになる。それを行政がどうサポートしていくか、その部分の役割分担が行政支援の根拠になってくる。

委員長

・私の学問的なバックグラウンドは経済学、財政学であり、芸術をどう財政的に支えるかという研究をしている。文化・スポーツという個人に関わるものを全部行政が丸抱えでや

るのは何かおかしいわけで、基本的には、ほとんどの部分は「民」でやれるものばかりと言っても過言ではない。ビジネスとして成り立っている所はたくさんある。ただし、世の中にはいろいろな方がいて、いくら美術館やスポーツクラブの料金が安くてもそこに行けない方もおり、そうした人たちの権利をきちんと保障するためにも、来ない人にこそ、むしろ何かをしてあげることが必要である。「区民に開かれた」と言う場合、単に料金を安くする、無料にする、24時間営業するというのではなく、そこを考えなければいけない。

・文化芸術・スポーツは、個人的なものではあるが、まち全体にとっての「効用」もある。これは、専門用語で言うところの「(準)公共財」の議論である。つまり、美術館や公演などの存在は、自分自身はそこには行かない第三者の人にとって何らかのメリットをもたらす側面がある。例えば、劇場やスポーツ施設に行かないが、立派な劇団や強いスポーツチームなどが地域にあることで、誇りに思い、住民が何らかの満足を得るということはしばしば起こる。あるいは、自分は参加しないが、家族が参加することで地域の人といろんなつながりができれば、コミュニティのつながりを作る意味で、スポーツや芸術団体に参加しない人にとっても多くのメリットをもたらすことがある。

・また、芸術については、最先端の芸術によって刺激を受けた人がいろんなクリエイティブな活動をし、それがビジネスに活かされる、あるいは、新しい社会の提案につながるということが起こるが、これらは科学研究が社会に与える便益とも共通する。あるいは、スポーツの分野では卓越したアスリートが人々に勇気を与え、何かをもたらす。そのように、文化芸術・スポーツは「公共財」の役割を果たすことがある。

・品川区として、文化芸術・スポーツに対し、どんな公共財的側面を重視するのが一つのまちづくりのイメージなる。もちろん、「文化や芸術・スポーツとは個人的なもの」というのが基本であるが、個人に任せておく、マーケットに任せるだけでは駄目という部分もあり、そこが行政の関わる部分である。また、NPOなどの新しい第三セクターの議論も含め、社会システムの設計につながっていくと思う。

・今日は、実際にディスカッションするところまではいかなかったが、次回以降は具体的な素材を見ながら、議論を進めていきたい。

10. 次回日程等について

- ・ 次回委員会は、6月8日、14時から行うものとする。

11. 閉 会

以 上